

令和2年度 学校関係者評価書

玉幡小学校 学校関係者評価委員会

○ 学校関係者評価委員会の経過

- 1 日時 令和3年2月5日(金) 午後2時50分～4時00分
- 2 出席者 学校評議員 鈴木澄雄 志村俊光 村松まゆみ
PTA代表 勝村和重(会長) 新海文裕 富永優美(2名とも副会長)
学校側 丸茂和也(校長) 長谷川佳代(教頭) 金丸恭子(教務主任)

3 内容

- ①学校より、教職員の自己評価・児童アンケート・保護者アンケートの結果と達成状況、今後の改善策の説明
- ②意見交換
- ③自己評価書の改善策について

4 学校関係者評価の結果

◆自己評価書の項目ごとの分析と改善策について

- | | |
|----------------------|-------|
| 1 全体評価について | 妥当である |
| 2 項目ごとの評価結果 | |
| Ⅰ学校教育目標に関して・学校経営について | 妥当である |
| Ⅱ学校運営について | 妥当である |
| Ⅲ学習指導について | 妥当である |
| Ⅳ生徒指導について | 妥当である |
| Ⅴ地域との連携について | 妥当である |
| 3 まとめと課題について | 妥当である |

5 意見、感想等(⇒学校側回答)

○学校教育目標・学校経営について

- ・コロナ禍での対応は学校教育目標や学校教育活動に様々に影響があったのではないかと。
- ⇒教育活動においては、特に音楽や体育など様々に活動制限があった。その中でもできる限り児童の活動ができる方向を模索しながらの実施となった。文部科学省や甲斐市のマニュアルに則って感染状況に応じた対応を実施した。

○学校運営について

- ・危機管理マニュアルにコロナ禍への対応も入っていくのか。
- ⇒通常危機管理マニュアルは例年は防災・防犯・交通安全だが、今年度はこれにコロナ対応も含めてきている。職員間で感染予防のための対応や感染者が出た場合の措置について共通確認をしながら予防に努めてきた。

○学習指導について

- ・話型指導とはどのようなことか。
- ⇒本校の校内研究において論理的思考力を高めるための話型指導を今年度から取り組み始めた。それにより教職員が対話や質問のできる授業づくりを意識してきていることがアンケート結果にも表れている。一方で、児童にはまだ浸透していないので、アンケート結果には表れてはいない。今後も継続研究することで児童が質問や対話できる授業づくりを目指していきたい。
- ・読書時間がアップした背景には何か特別な取り組みをしたのか。
- ⇒例年学校図書館を中心に委員会活動等で様々な読書を勧める取り組みをしている。また、教室でも読み聞かせを行い、少しでも児童が読書をしたくなるような取り組みを行っている。これらが功を奏したと考えられる。一方、今年度はステイホームで出かけられないことも読書時間の伸びにつながっているのではないかと推測される。

○地域との連携について

- ・学校に関心があってもなかなか学校の情報を得ることが難しい。そこで、回覧板などで学校のおたよりなどを回覧したりして学校のことを地域の方々にも知っていただくことが良いのではないか。
- ・昨年度の5年生の総合的な学習の時間に実施された環境についての学習が地域の人たちへの関心を高め非常に良い取り組みだった。今年度はコロナ禍でできないのかもしれないが、是非今後も継続して行ってほしい。
- ・地域の人たちに学校施設の利用を促すことで学校と地域の方とをつなぐことができいていくのではないだろうか。「体育館に泊まろう」というイベントなどで防災という観点も含め、学校を身近に感じてもらえるようにしたらどうか。

○学校評価について

- ・質問項目の見直しをしてほしい。
- ➡学校評価検討委員会において質問項目の見直しを図っている。

記載責任者（玉幡小学校 学校関係者評価委員）

勝村 和重

